
Memento

部落史連続講座

『京都の部落史』にみる人びとの仕事と暮らし

多数ご参加ください！

灘本昌久

部落史研究は、この20年余りのあいだに大きく進展し、従来の部落史像は大きく書きかえられてきました。また、現在学校教科書で教えられている部落史も、新しい研究動向にそって改訂されてきています。昨年度は、そうした動向をふまえて、新しい部落史についての連続講座を開きました。

ただ、概説的な意味で、従来の部落史とは違う考え方があることは理解していただけたとは思いますが、では実際にどのような研究の中から、どのような史料が出てきて、それがどう解釈されて新しい部落史につながっているのか、その点は十分な説明ができませんでした。

本年度は、昨年度の講座でとりあげられたテーマのいくつかについて、具体的史料を提示して解説しながら、それぞれの時代の賤民集団に属する人たちがどんな生活をしていたのかを、仕事（あるいは職能）を中心に考えていきます。

本年度の連続講座での講演をお願いした三人の先生は、『京都の部落史』を執筆された方々であると同時に、それぞれの分野での研究の最先端を代表する研究者です。多方面でご活躍され、講演も数知れずこなされていますが、この顔ぶれが一挙に出そろった連続講演は、かつてなかったと思いますし、今後もなかなか簡単には実現しないでしょう。当センターならではの画期的企画として、自信をもってみなさんに参加を呼びかけます。

以下に、簡単ではありますが、各先生の横顔を紹介しますので、参加される際の参考にしてください。

井上満郎氏

現在、京都産業大学文化学部教授をされています。部落史でも著名な上田正昭氏（京都大学名誉教授）に師事し、古代史を研究されました。『平安京』『平安時代軍事制度の研究』『平安京の風景』など平安京に関する著作を数多く著されています。また、『人権の歴史』改訂版（山川出版社、1997年）で古代史を担当されるなど、古代における部落史（広い意味での）研究を代表する一人です。さらに、忘れてはならないのが、近著『古代の日本と渡来人 古代史にみる国際関係』（明石書店、1999年）に集大成された「渡来人」研究です。渡来人・奴婢・天皇など、古代における身分や民族の問題について、興味深いお話が聞けるものと期待しています。

山路興造氏

国立文化財研究所芸能部嘱託、京都市文化財保護課参与、京都市歴史資料館館長をはじめ、かずかずの要職を歴任された、京都の歴史、芸能史研究の著名な研究者です。

部落史研究上、賤民と芸能の関係については、盛田嘉徳氏の『中世賤民と雑芸能の研究』（雄山閣出版、1974年）をあげるまでもなく、古くから研究されてきており、多くの成果をあげてきています。しかし、一方で部落史から芸能にアプローチした部落史研究者には、芸能民＝被差別民という思い込みが強かったため、一面化がまぬかれなかったことは否定できません。そうした傾向にたいして、山路氏は、芸能民が必ずしも被差別民であるわけではないとして、国衙や権門勢家などによって保護された鎌倉時代までの専門的芸能者と南北朝・室町期以降の様々な芸能には質的な差異があることを明らかにされました。詳しくは、京都部落史研究所編『中世の民衆と芸能』（阿吽社、1986年）や山路興造著『翁の座 芸能民たちの中世』（平凡社、1990年）をご覧ください。京都における中世賤民集団のうち、芸能に深く関わったのは声聞師（散所民）ですが、山路氏はそうした方面からの研究も続けておられます。今回の講演では、賤民と芸能、あるいは夙・河原者・声聞師といった賤民集団の違い、相互関係などについてのお話も聞けるものと期待しています。

山本尚友氏

あらためて紹介するまでもなく、京都部落史研究所の創立以来の事務局長・主任研究員として師岡佑行所長のもとで『京都の部落史』の編纂、京都部落史研究所の運営を担ってきた中心的な研究者です。上記の山路氏とは対照的に、部落史生え抜きの研究者の代表格といえるでしょう。部落の真宗受容が幕府の強制によるものではなく、部落大衆の宗教的営みの自然な結果であることを明らかにした画期的な論文＝「近世部落寺院の成立について」（『京都部落史研究所紀要』1・2号、1981・2年）以来の研究を、博士論文である『被差別部落史の研究』（岩田書院、1999年）としてまとめられました。この著書を読めば、現在の部落史研究が、旧来の啓蒙期を脱してたどりついた実証レベルの到達点を実感できるでしょう。

今回の講演では、穢多身分・非人身分のそれぞれが、警察業務＝刑警吏役にどのようにかかわったかという話を中心に、近世被差別身分の職能に関する新しい知見、興味深い話が聞けるものと期待しています。

第1回 2003年12月12日（金） 古代編

講師：井上 満郎（京都産業大学文化学部教授）

第2回 2004年 1月23日（金） 中世編

講師：山路 興造（芸能史研究会代表委員）

第3回 2004年 2月19日（木） 近世編

講師：山本 尚友（世界人権問題研究センター客員研究員）

時間 午後6時～8時

場所 京都府部落解放センター2階 実習室

資料代 各回 300円（会員は200円）

～参加希望の方は当日までに資料センターまで電話・FAX・電子メールでご連絡ください～

『京都の部落史』史料を読む 第5回

解放令とゴミ問題

中島智枝子

はじめに

「『京都の部落史』史料を読む 第1回 辻芝居について」で、悲田院の下に統括されていた非人たちを始めとした人々によって大道芸が都大路を賑わしていることを紹介した。これらの大道芸に対して京都府は、1871年（明治4）9月、前月に出された解放令を天部村および悲田院に布達するとともに、「一、辻芸・門芝居、向後禁止の事」として、禁止を命じている。この時出された布達では、辻芸や門芝居を禁止する他に、身分に伴う公役の廃止およびそれに伴う措置については同じ内容であるが、悲田院に対してのみ布達された事項がある。

悲田院に対しての布達に見られ、天部村に見られない事項の1つは番人役について、2つは貸し小屋について、3つは塵芥について、4つは辻小路の小便桶についてである〔『京都の部落史』第6巻 48～50ページ〕。

塵芥についてこの時の布達では「市中町々に集めこれある塵芥を取散らし、溝川の石垣の根を掘荒らし候ものこれあり。市街の妨げひとかた形ならず候に付、向後差留め候事。」とある。辻小路の小便桶については、「市中辻小路に小便桶を置き、其利益を取来り候処、自今差留め候事。」という内容である。塵芥及び尿尿に関する事項が悲田院に対する布達に見られる点について今回は考えてみたい。

江戸時代のゴミ問題

塵芥問題といえば、大量生産・大量消費文化の現代社会にあってはその廃棄物の処理をめぐって重大な社会問題となっている。これらの問題が江戸時代にはどのようなものであったのか、また、この時期の京都におけるゴミ事情について、まず、簡単に見ておこう。

分別収集を始めとしてゴミのリサイクルを通して循環型社会を作っていくことが緊急の課題といわれる現代であるが、一方、江戸時代は社会が完全リサイクル社会であった点で注目されている。そこで、まず、江戸時代の社会におけるゴミ事情であるが、石川英輔氏

は『大江戸リサイクル事情』（講談社刊、1994年）の中で、「江戸時代までの太陽エネルギー利用は一方通行ではなく、ごく最近の日本列島に降り注いだ太陽エネルギーだけでまかなえるように、社会構造そのものができ上がっていた。しかも、一度使ったものが不用になった場合も、ほぼ完全に再利用できるようなシステムが、長年かけてでき上がっていた」社会で、「江戸文化は、洗練の極致に達したりサイクル文化」、「過去二、三年間の太陽エネルギーだけでほとんど全部をまかなえた江戸文化は、持続可能（sustainable）な文化」であったと指摘されている。このようなリサイクル社会を支えていたのが、リサイクル業者であったということだ。石川氏によればリサイクル業者として職商人、修理・再生専門業者、回収専門業者の三種類がみられ、これらの業者によって江戸のリサイクル社会が担われ循環型社会を形成していたということである。

一方、京都のゴミ事情であるが、山崎達雄氏の『洛中塵捨場今昔』（臨川書店刊、1999年）によれば、江戸時代の京都では、江戸と同様、リサイクルが盛んでゴミの排出量も少なく、また、近傍にゴミを受け入れる余地があり、現代のゴミ処理施設をめぐる問題のようなものは見られなかったということである。とはいえ、京都では川へのゴミの投棄が、河川管理上度々大きな問題になったということである。河川へのゴミ投棄は盛んに行なわれ、堀川、高瀬川へのゴミ投棄は大きな問題になった。さらに、御所への水路にあたる御泉水川筋にもゴミは捨てられたという。このため、川にゴミを投棄することを禁止する制札が度々出される一方、京都町奉行所は元禄8年（1695年）、洛中に塵捨場7カ所を設置している。ところが、塵捨場は利用されることなく、川への投棄が相変わらず続く。このため、寛政10年（1798年）、元禄8年の塵捨場の制度を復活させ、洛中の7カ所に塵捨場を設置したものの、川筋へのゴミ投棄が相変わらず続き、幕末を迎えたという。

ゴミ収集をする番人

江戸期、京都の人々は、河川への投棄のほか、ゴミの処分をどのようにしたのだろうか。山崎氏によれば、町屋の裏庭などに穴を掘り処分するほかに、町の出入り口にあたる木戸の脇に設置された塵溜に出したということである。塵溜の大きさは、三尺から五尺（1メートルから1.5メートル）四方で、塵溜の脇には小便桶も置かれていた。塵溜に溜まったゴミは、町によって、塵捨場に運ばれ処分された。

ところで、各町の出入り口に置かれた木戸であるが、そこに置かれたのが、番非人であった。番非人については『京都の部落史』では「乞食、辻芸とならんで小屋下非人の重要な仕事が番人であった。京都の町中は小屋頭ごとに担当の町が決っていて、小屋頭は町からは親方と呼ばれた。親方は自分の配下の非人から信用のできる人物を選び出して、番人として町に送り出した」[第1巻 325ページ]ということである。

町番人の仕事であるが、当初は夜番と乞食の追い払いが主なものであった。やがて、様々な仕事を行なうようになり、その中に、町内の掃除やゴミ集めを行い、「今出川口や二条口などの鴨河原や郊外の空き地など、洛中に設けられた7カ所のゴミ捨場に持って行って捨てた」という。番人がゴミ収集の仕事をしていたことを伝える史料として『京都の部落史』には、次のような史料が収められている。

嘉永元年（1848年）6月28日、「道直しの土取り穴を、所々の番人の集めた塵埃でうめる」という史料である[第5巻 282～283ページ]。『高辻西洞院町文書』として遺された文書の中の史料であるが、高辻西洞院町では道普請を行なった際、予め工面していた土だけでは間に合わず、町内に穴を掘り土を取って工事を行なったものの、この穴をいつまでも放置しておくことも出来ず、番人達が集めた塵埃で埋めた。ところが、「其当座隣家蠅多く出」とあるように、番人達が集めた塵埃は生ゴミを主としたものであったといえる。

悲田院配下の番人がゴミ収集に関わっていたことを知ることが出来る史料はこの他にも見られる。文久元年（1861）7月の日付をもつ「京大黒町、番人親方へ手下番人の倍の出銭を行なう」[第5巻287～288ページ]では、番人に対して支払う金銭の中に、「ごもく銭」として町衆より月20文、表借家より月16文、裏借家より月12文とある。さらに、但し書きに「但し渡世柄二より多分捨候方八別段心付遣し可申事」とある。

毎月、ゴミ収集費を住民が支払っていたこと、また、心付けを番人に出すこともあったことが窺える。これらから、江戸期には、町内の番人がゴミ収集にあたり、京都市内のゴミ処理はなされていたといえる。

なお、番人については、解放令が出された時、京都府では従来通り続けてよいとし、その居村の戸籍に平民として編入するよう指令を出している。また、「改て他の平民を番人にいたし候共、其村の衆議に任すべし」として、村が新たに番人を任ずることも認めている。

リサイクルとゴミ拾い

明治維新後、京都町奉行所に代わり京都市政を担った京都府では、1869年（明治2年）1月、「京都の町、兎角塵芥腐敗のもの多く、溝さらへも怠れり。これらの事より諸人様々の病にやみては不便の事に付き、町内申合せ町々の掃除溝さらへ等に早速取掛るへし」とする、病気予防の観点からゴミ掃除の必要を説く告諭を出している。

この告諭が出された2か月後の3月9日、京都府では、1868年（明治元年）11月29日に流民対策として設置された流民集所に市中の塵芥掃除を命じている。この時、京都府では市中を区割りして、それぞれの流民集所に担当地区を指定し、收容された流民にゴミ収集に当たせられた。ついで、同年11月、新たに塵捨場を3カ所設置、翌年1月にはごみ籠置場の設置、さらに2月には養豚を行なう協救社が市中に桶を置き、残飯収集が開始された。山崎氏によれば、塵捨場・流民集所・協救社による明治初期のゴミ処理体制が出来上がったということである。当然この仕組に非人身分の番人たちも組み込まれ、ゴミ処理の仕事を担当していたといえる。

解放令が出されるにおよび悲田院に対して塵芥や辻小路の小便桶について布達したのは、これ等の仕事が、非人身分と深く関わる仕事であったことからくる措置であったといえる。それだけにとどまらず、「市中町々に集めこれある塵芥を取散らし、溝川の石垣の根を掘荒らし候ものこれあり。市街の妨げ一形ならず候に付、向後差留め候事」と布達した背景には、ゴミ処理に番人たちが関わっただけでなく、番人として雇われた非人身分の人たち以外にもゴミと深く関わっていた人びとが見られたことを物語っているのではないだろうか。

「市中町々に集めこれある塵芥を取散らし」ということはどのようなことを指しているのだろうか。番人達が集めたゴミを取り散らかすということは考えにく

い。とすれば、番人達が集めた塵芥を取り散らかす人たちがいたということを示していると考えられる。

石川氏によれば江戸のリサイクル社会を支えたものにリサイクル業者の存在が大きかったと指摘されている。そして、リサイクル業者の1つである回収専門業者として次のようなものが挙げられている。紙屑買い、紙屑拾い、古着屋、傘の古骨買い、湯屋の木拾い、古樽買い、行灯の仕替え、箒売り、蠟燭の流れ買い、取っつけええ（子ども相手に古釘等の金属と簡単なおもちゃや飴と交換した）、ごみ取り、肥汲み、灰買い。実に多種多様な物を回収し、再利用したかがこれらから窺える。「市中町々に集めこれある塵芥を取散らし」というところからは、ゴミの中から紙屑、木、傘の骨、古箒、ごみ等を拾い集めることを指すものといえる。悲田院への禁止条項になっているところからも、ゴミ拾いをする人びとが非人身分の中に見られたことを読み取ることが出来るのではないだろうか。さらに、1875年（明治8）3月、京都府ではゴミ収集と再生を行なう化芥所を設置している。この時出された布令の中で、「敗衣を着し、道路に於て塵芥廃棄の物を拾ひ取、日を消し候者、往々相見へ候。右は従前非人乞食と相唱へ候類の所業にて」[第6巻 417ページ]、つまり、道路上で廃棄物を収集することは、以前は「非人乞食」の「所業」であったと述べているが、この箇所からも、廃棄物の収集を非人身分の人たちが行なっていたと見てよいのではないだろうか。そして、廃棄物の回収等の仕事に対して、京都府は、ゴミの処理は都市にとって必要不可欠なことであり、これが円滑に行なわれなければ都市生活が潤滑に営まれないにも拘わらず、「市街の妨げ一形ならず」、つまり、都市生活を妨害するものと見ていたといえる。また、当時の人びとがゴミ拾いをする人びとをどのような眼差しで見ていたかも窺える。

江戸では生ゴミは埋め立て用に使われていたが、やがて、肥料として使われるようになり、ごみ取りという生ゴミを集める業者が生まれたという。京都でも、おそらく生ゴミは肥料として使われていたといえるだろう。また、山崎氏によれば川浚いや溝浚いの際に出る汚泥も、初期の頃は塵捨場へ運ばれ処理されていたが、後に多量の有機物を含んでいるということで肥料として使われるようになったということである。「溝川の石垣の根を掘り荒らし」とあるのは、このように石垣の基礎を荒らしてしまうほど、肥料になる泥や砂を取り過ぎてしまうことを指していると考えられる。

溝、川の汚泥を浚って生活の糧を得ていた人々が非人身分の人々の中に見られたといえる。これらから、番人の仕事としてのゴミ収集の他に再生可能な廃品の回収に非人身分が大きく関わっていたといえる。

悲田院に伝えられたもう一つの禁止条項である辻小路に設置の小便桶であるが、京都府では、解放令を悲田院に布達した直後の同月晦日、悲田院取り扱ひの廃止と今後は「坊市を区別し、価格を定め、村民をして分洵せしむ。是の日、市近の各村に布告」[第6巻 51ページ]した。そして、区画を限り、汲み取りを希望するものが入札価格を府に提出することを併せて達している。尿尿は化学肥料が開発されるまでは肥料として利用されており、売買されていた。京都市中の尿尿処理という特権を有していた非人身分の人たちはこの措置によって経済的な打撃を受けることになった。

むすび

解放令を告げる悲田院に対する布達の中の塵芥および辻小路設置の小便桶の禁止条項を通して、廃棄物の回収という江戸期のリサイクル社会を支える上で不可欠な役割を果たしてきた仕事の一端を非人身分の人々が担って来ていたことが明らかになった。とはいえ、その仕事に対して、当時の人びとの眼差しは、「市街の妨げ一形ならず」とあるように、好意的なものでなかったこともあわせて知ることが出来る。

この後、京都府では、前述したが、1875年（明治8）3月、塵芥の収集および収集物を選び分け再生品の製造を行なう化芥所を設置した。この化芥所の設置は、都市問題としてのゴミ処理問題という観点のものではなく、「済貧の規則設立し、右輩（塵芥廃棄の物を拾い取るもの 中島注）をして生活の術を得せしめ、往々職業相弁へ、門戸を治る基本の為」とある通り救貧施策に力点が置かれたものであった。このため、化芥所に雇い入れる者を「化芥所の受業人は都下の貧民」とし、「生計の為雇賃を立遣すべき事」としている。

人々が生活する限りゴミは出され、そのゴミの処理は都市にとって必要不可欠な問題であることに変わりはない。ゴミ処理問題や尿尿処理問題は、千年の王城として栄えてきた都市・京都にとっては重要な問題であるが、ゴミ問題が都市問題として重要な問題と認識されるのにはもう少し時間を必要としたようだ。

（なかじま ちえこ / 京都部落問題研究資料センター運営委員）

収 集 図 書 (2003年7月～9月受入)

総記 逐次刊行物

新潮45 7月号(新潮社刊, 2003.7): 760円 「『校長連続自殺』に潜む広島教育界アンタッチャブル」(中尾幸司), 「『部落解放の父』松本治一郎伝」(高山文彦) 所収

総記 博物館

アイヌ民族博物館(白老民族文化伝承保存財団, 白老町教育委員会刊, [199-])

崇仁小学校の宝物(京都市人権文化推進課刊, 2003.7)

柳原銀行記念資料館第13回特別展図録

丹後弥生王国 資料館で見る現地説明会(京都府立丹後郷土資料館刊, 2003.7) 企画展パンフレット

部落問題 総記

歩いて・聞いて・考えた リリアンス・ブックレット11(吉田賢作著, 反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2003.3)

知っていますか? 部落問題 一問一答 第2版(知っていますか? 部落問題一問一答編集委員会編, 解放出版社刊, 2002.12)

人権からくち通信 機関紙・草の根投稿集(全国自由同和会岐阜県連合会刊, 1998.3) 同和問題啓発資料 解説: 藤田敬一

人権啓発研究集会討議資料 第13回(第13回人権啓発研究集会実行委員会刊, 1999.2)

人権問題研究資料 第17号(近畿大学人権問題研究所刊, 2003.3)

世界人権問題研究センター年報 2002年度(世界人権問題研究センター編刊, 2003.6)

熱と光 第21号(京都解放教育研究財団編刊, 2001.11)

特集: 学校における危機管理と危機対応

部落問題 差別事件・生活・宗教・労働問題・伝記

朝田善之助全記録 55(朝田教育財団刊, 2003.7): 1,000円

いのちの輝き 仏教者と人権・同和問題(角出誠堂著, 浄土宗刊, 2001.4)

今, 何が求められているか 企業と同和問題(田村正

男[講演], 京都雇用開発センター刊, [1996.5]) 平成7年度京都雇用開発センター会員研修記録

上杉佐一郎伝(部落解放同盟中央本部編, 解放出版社刊, 2002.5)

狭山事件第2次再審請求特別抗告申立書 2002年1月29日付([出版者不明], [2002.1]) 付: 2002年1月23日付異議申立棄却決定(東京高等裁判所第5刑事部)

狭山裁判の超論理 表が出たら私の勝ち・裏が出たらあなたの負け(半沢英一著, 解放出版社刊, 2002.10)

すべての人が輝くために 企業が果たすべき役割(福田雅子[講演], 京都雇用開発センター刊, [1996.10])

平成8年度京都雇用開発センター総会講演記録(1996.5)

「人間の尊厳」を求めて 人権・部落差別問題の取り組み(若林清太郎編著, 全日本自治団体労働組合刊, 1994.7)

ホルモン奉行(角岡伸彦著, 解放出版社刊, 2003.6)

私の履歴(上田藤兵衛著, [出版者不明], 1995.1)

部落問題 歴史

都市下層の社会史(小林丈広編著, 部落解放・人権研究所刊, 2003.6): 3,800円

城下町警察日記(紀州藩牢番頭家文書編纂会編, 清文堂出版刊, 2003.5): 15,000円

部落史50話(中尾健次著, 解放出版社刊, 2003.6)

部落問題 同和行政

京都市同和地区住民生活実態把握事業 中間集計 平成12年度(京都市文化市民局人権文化推進部編刊, 2001.9)

京都府における同和対策のあゆみと今後のあり方について 報告 「地対財特法」期限を迎えて(京都府同和・人権啓発室刊, 2002.2)

福知山市同和対策総合計画 総論・基本構想・基本計画(福知山市同和対策室編, 福知山市刊, 1993.3)

奈良県同和行政事業史(奈良県編刊, 2003.2)

部落問題 解放運動

大阪における今後の同和行政の基本方針について 討議資料 同和行政推進大綱策定と「部落解放新要請白書」の具体化をめざして(部落解放同盟大阪府連

合会刊, 1994.11)

過去に学び今を見つめ明日を知る 大阪府水平社・
全国水平社70周年記念誌(部落解放同盟大阪府連合会
編刊, 1992.8)

部落解放同盟京都府連合会辰巳支部第26回定期大会
議案書(部落解放同盟京都府連合会辰巳支部刊, 2003.7)
[部落解放同盟京都府連合会]千本支部第42回定期
大会議案書(部落解放同盟京都府連合会千本支部刊, 20
03.7)

部落解放京都府企業連合会総会議案書 第28回(部落
解放京都府企業連合会編刊, 2002.6)

「よき日」をめざして 水平社創立80周年記念誌(部
落解放同盟奈良県連合会刊, [2002])

「よき日」をめざして 奈良県水平社創立80周年記
念写真集(部落解放同盟奈良県連合会編刊, 2002.5)

和歌山部落解放運動史論 和歌山水平社創立80年記
念誌(部落解放運動史編集委員会編, 部落解放同盟和歌
山県連合会, 和歌山人権研究所刊, 2003.5)

部落問題 教育

かわと小物 人権総合学習つくって知ろう!かわ・
皮・革(太田恭治, 中島順子, 三宅都子, 山下美也子文,
中川洋典絵, 解放出版社刊, 2003.3)

同和教育実践がひらく人権教育 熱と光にみちびか
れて(森実編著, 解放出版社刊, 2002.12)

部落解放第5回京都府「同和」保育研究集会 討議資料
(部落解放第5回京都府「同和」保育研究集会実行委員会編
刊, 2001.11)

部落解放全国識字経験交流集会 第7回([部落解放
同盟中央本部]刊, 1995.10)

部落解放全国識字経験交流集会 第8回([部落解放
同盟中央本部]刊, 1997.11)

部落問題 文化

住井すゑの世界 その生涯と文学(前川む一編, 解放
出版社刊, 2001.6)

中上健次論 熊野・路地・幻想(守安敏司著, 解放出
版社刊, 2003.7)

日本の差別問題

いのち, 響きあって 病気や障害は来た道, 行く道
(五島真理為著, 解放出版社刊, 2003.3)

AIDSをどう教えるか 第2版(五島真理為・尾藤りつ子
編著, 解放出版社刊, 2002.9)

金達寿ルネサンス 文学・歴史・民族(辛基秀編著,

解放出版社刊, 2002.2)

現代の差別と人権 とともに生きる社会をめざして(山
田光二, 内山一雄編, 明石書店刊, 1993.3)

次代を拓く女たちの運動史(伍賀偕子著, 松香堂書店
刊, 2002.11)

知っていますか? 沖縄 一問一答 第2版(金城実著,
解放出版社刊, 2003.3)

知っていますか? 出生前診断 一問一答(優生思想を
問うネットワーク編, 解放出版社刊, 2003.2)

知っていますか? ドメスティック・バイオレンス
一問一答 第2版(日本DV防止・情報センター編著, 解
放出版社刊, 2002.10)

実例・差別表現 糾弾理由から後始末まで、情報発
信者のためのケーススタディ(堀田貢得著, 大村書店
刊, 2003.7): 2,000円

人権活動団体のジェンダー意識 平成14年度共同研
究事業報告書(福岡市市民局人権・同和対策部人権啓
発センター刊, 2003.3)

人権文化の確立を目指して 学習資料編(部落解放基
本法制定要求国民運動福知山地区実行委員会刊, [2003])

日本らい史 増補(山本俊一著, 東京大学出版会刊, 19
97.12): 8,800円

猫を喰った話 ハンセン病を生きて(崔龍一著, 解放
出版社刊, 2002.9)

ハンセン病 排除・差別・隔離の歴史(沖浦和光, 徳
永進編, 岩波書店刊, 2001.11): 2,000円

ハンセン病療養所 百年の居場所(太田順一著, 解放
出版社刊, 2002.9)

各国の差別問題

地球規模で捉えるカースト差別・部落差別の今 国
際人権ブックレット10(アジア・太平洋人権情報セン
ター編刊, 2003.3)

東アジアの男女平等教育 国際人権ブックレット9
(アジア・太平洋人権情報センター編刊, 2002.3)

歴史

記憶の比較文化論 戦争・紛争と国民・ジェンダー・
エスニシティ(都留文科大学比較文化学科編, 柏書房
刊, 2003.2): 3,200円

「在満少国民」の20世紀 平和と人権の語り部とし
て(吉岡数子著, 解放出版社刊, 2002.6)

昭和天皇と近現代日本(後藤致人著, 吉川弘文館刊,
2003.6): 7,000円

追憶 故渡部徹先生(偲ぶ会呼びかけ人刊, [1995.3])

社会科学

アジアの中の日本 日本の中のアジア アジアの経済発展と日本（宋仁守編，法律文化社刊，1999.9）
 生きづらい母親たちへ アダルトチルドレン，依存症のセルフヘルプ・グループ（ママネット編，解放出版社刊，2002.4）
 女の子の性の本 こころもからだも私のもの（池田久美子，尾藤りつ子著，解放出版社刊，2003.7）
 韓国の歴史 国定韓国高等学校歴史教科書 新版 世界の教科書シリーズ1（大槻健，君島和彦，申奎燮訳，明石書店刊，2000.4）
 教育には何ができないか 教育神話の解体と再生の試み（広田照幸著，春秋社刊，2003.2）：2,300円
 京都府統計書 平成12年（京都府総務部統計課編刊，2002.3）
 知っていますか？アダルト・チルドレン 一問一答（斎藤学監修，アダルト・チルドレン一問一答編集委員会編，解放出版社刊，2002.10）
 知っていますか？個人情報と人権 一問一答（白石孝著，解放出版社刊，2003.2）
 知っていますか？ホームレスの人権 一問一答（松繁逸夫，安江鈴子著，解放出版社刊，2003.6）
 天皇の戦争責任 同時代ライブラリー55（井上清著，岩波書店刊，1991.1）：1,000円
 どうなる南北統一Q&A 朝鮮半島の過去・現在・未来

を読む（李仁哲，青木理，宋悟，西村秀樹，高賛侑，古野喜政著，解放出版社刊，2002.9）
 ドキュメント京都市政 次代を生きるあなたに伝えたい（梶宏著，白川書院刊，2002.10）
 人はなぜ「権利」を学ぶのか フィリピンの人権教育（阿久澤麻理子著，解放出版社刊，2002.2）
 フィリピン・幸せの島サマール ある民際協力の試み（北上田毅著，明石書店刊，1999.11）
 ミシシッピを知ると矛盾大国アメリカが見えてくる（神林毅彦著，解放出版社刊，2002.3）
 やってみよう！ 総合学習 学びのPlan-Do-See（高校総合学習プロジェクトおおさか編，解放出版社刊，2002.12）
 民族幻想論 あいまいな民族つくられた人種（スチュアート ヘンリ著，解放出版社刊，2002.6）

芸術・文学

いのちの花（そのだひさこ文・丸木俊絵，解放出版社刊，2003.6）
 おたまさんのおかいさん（日之出の絵本制作実行委員会文，長谷川義史絵，解放出版社刊，2002.12）
 星の溜息 演劇と放送ドラマの世界（鶴野昭彦著，解放出版社刊，2002.4）
 渡邊恒雄メディアと権力（魚住昭著，講談社刊，2000.6）

収集逐次刊行物目次（2003年7月～9月受入）

～各逐次刊行物の目次の中から編集部の判断でピックアップしました～

明日を拓く 49 解放研究 16（東日本部落解放研究所刊，2003.3）：2,000円
 屠場文化 食肉・皮革を支える人びと 桜井厚
 伝通院御掃除町と御家人・御掃除之者及びその居住地に関する研究 内田雄造，藤沢靖介
 「相州鎌倉極楽寺村長吏類門帳」と関連する史料について 鳥山洋
 北関東・下野國小頭に関する一考察 由緒書と「佐野場」の構造を手がかりに 岡田あさ子
 地域再生とまちづくり・むらおこし コミュニティワークの活用に向けて 内田雄造
 健筆で担った創立期水平運動 平野小劔研究3 朝治武
 部落史の断章 5 上州馬市差別事件を通して見えてきた研究課題 大熊哲雄
 明日を拓く 50（東日本部落解放研究所刊，2003.3）：

1,000円
 特集 地域の歴史と文化
 地域における歴史・文化・生活史の掘り起こし 石田貞 / 座談会 板倉白山神社の『白山大権現』文書と南部屋製の太鼓をめぐる
 福田村事件への取り組み 鎌田行平
 狭山事件・石川一雄さんの識字力・「を」と「お」の使用について 大沢敏郎
 跡地発 22（大阪市よさみ人権協会刊，2003.7）
 シリーズ 十人十色の部落問題 15 19歳、ぼくがやりたいこと。 黒河内政行
 IMADR-JC通信 125（反差別国際運動日本委員会刊，2003.7）：500円
 本の紹介 『衡平運動 朝鮮の被差別民・白丁（ペクチョン）その歴史とたたかい』（金仲燮著）

IMADR-JC通信 126 (反差別国際運動日本委員会刊, 2003.9) : 500円

特集 ウォッチ! 女性差別撤廃委員会日本報告書審査本の紹介 『人権政策学のすすめ』(江橋崇・山崎公士編著) 坂本周子

ウイングスきょうと 57号(京都市女性協会刊, 2003.8)

コミックで考えるジェンダー 「明日の王様」(谷地恵美子著)

図書情報室新刊案内

『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』(ベル・フックス著) / 『夫婦関係学への誘い 揺れ動く夫婦関係』(諸井克英著) / 『愛と怒り闘う勇気 女性ジャーナリストいのちの記録』(松井やより著) / 『シングル化する日本』(伊田広行著)

大阪の部落史通信 33(大阪の部落史委員会刊, 2003.8) 食肉の村の形成 のびしょうじ

書評と紹介

『改訂箕面市史 部落史』本文編・史料編1・史料編2(箕面市史改訂版編さん委員会編) 小林丈広 / 『太鼓・皮革の町 浪速部落の300年』(「浪速部落の歴史」編纂委員会編) 森田康夫

図書紹介 『南王子村の水平運動』(和泉市立人権文化センター編) 吉岡隼平

岡山部落解放研究所報 244号(岡山部落解放研究所刊, 2003.6) : 100円

記念講演要旨 水平社宣言と現在の人権・部落問題 差別の現実から学ぶこと 住田一郎

解放教育 427(解放教育研究所編, 2003.7) : 710円

特集 ミュージアム探検 博物館を人権学習に活かす

解放教育 428(解放教育研究所編, 2003.8) : 710円

特集 自由時間を愉しむ子どもたち 居場所としての青少年会館から

図書紹介 『アソシエーション革命へ 理論・構想・実践』(田畑稔他編著) 中村徹

解放教育 429(解放教育研究所編, 2003.9) : 710円

特集 読書のロードマップ 知を磨き、明日をひらく

解放研究しが リリアンス研究紀要 13号(反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2003.5) : 1,000円

特集 「啓発講座」を読み解く

講座・差別する心を探す 「一週間、車の中で考えてたんですけど」 岸衛 / 啓発場面の相互行為分析

「対話型」における参加者のメンバーシップ問題に焦点化して 倉石一郎 / 社会啓発の「対話」的方法 山田富秋 / 「評価されるための道徳」から「自分が自分を」啓いていく「快感」へ ある社会啓発講座が実践

するコミュニケーションの解説から 好井裕明
滋賀県における社会啓発事業の実施内容に関する考察
「ワークショップ・参加型学習」の流布する状況下で
倉石一郎

月刊解放の道 234号(全国部落解放運動連合会刊, 2003.7) : 350円

特集 人権・民主主義・住民自治へ それぞれの発展的転換

月刊解放の道 236号(全国部落解放運動連合会刊, 2003.9) : 350円

特集 住民要求実現と組織づくり

解放へのはばたき 72(日本基督教団部落解放センター運営委員会刊, 2003.8)

特集 いま部落差別問題はどうか

架橋 9(鳥取市人権情報センター刊, 2003.8)

ある差別事件、徹底糾弾の顛末 「今、私の生きる意欲になっています。」 椋田昇一

かわとはきもの 124(東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2003.6)

靴の歴史散歩 69 稲川實

整形靴はどうあるべきか 大野貞枝

皮革関連統計資料

季節よめぐれ 187号(京都解放教育研究会刊, 2003.8)

解放新聞・筆者に聞く 外川正明

季節よめぐれ 188号(京都解放教育研究会刊, 2003.9)

昨日の自分より今日の自分が好き 同和教育の視点に立ち、人間関係づくりをどう構築していくのか 森口健司

季節よめぐれ 189号(京都解放教育研究会刊, 2003.10)

水平社創立の思想 水平社博物館の展示から見えるもの
守安敏司

京都市政史編さん通信 14号(京都市市政史編さん委員会刊, 2003.6)

上田蟻善の文書について 田中真人

「近代京都の記録」展に出陳した行政文書について 小林丈広

賀茂川附替計画平面図をめぐって 秋元せき

グローブ 34(世界人権問題研究センター刊, 2003.7)

門付け芸能考2 歩き巫女 山路興造

「虚構」としての部落問題 『地域史のなかの部落問題

近代三重の場合』(黒川みどり著)を読んで 田中和男

連合軍捕虜と神戸港 飛田雄一

朝鮮関係用語をめぐる「戦線」後退 宮本正明

研究所通信 300(部落解放・人権研究所刊, 2003.8) : 100円

最近の文献から 『学校臨床学への招待 教育現場への臨床的アプローチ』(近藤邦夫・志水宏吉編)

研究所通信 301 (部落解放・人権研究所刊, 2003.9) : 100円

最近の文献から

『企業の社会的責任 求められる新たな経営観』(高巖・辻義信・Scott T Davis・瀬尾隆史・久保田政一共著) / 『部落マイノリティ(出身者)に対する結婚忌避・差別に関する分析』(部落解放・人権研究所刊)

こべる 124 (こべる刊行会刊, 2003.7) : 300円

感性と技術 岡崎拓巳さんの文章(3月号)を読んで 高田嘉敬

「冷え物」論争への私の批判 吉田智弥

「ありがとう」という言葉 中村大蔵

こべる 125 (こべる刊行会刊, 2003.8) : 300円

「部落史」は墓標となるか 「人権」看板の氾濫する下で 畑中敏之

親・世間・国家を敵として 吉田智弥

私の老後はどのタイプ 中村大蔵

こべる 126 (こべる刊行会刊, 2003.9) : 300円

ADHDという憂鬱 中西仁

『INTERVIEW「部落出身」 12人の今、そしてここから』とカムアウトについて 住田一郎

こべる 127 (こべる刊行会刊, 2003.10) : 300円

啓発の風景 野町均

たとえ何があるうとも 中村大蔵

狭山差別裁判 354号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2003.6) : 300円

特集 40年目の狭山

狭山差別裁判 356号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2003.8) : 300円

特集 ひろげよう狭山住民の会

司法過疎問題克服への取り組み 小笠原くらしの総合相談・法律教室 インタビュー 山上博信

月刊滋賀の部落 350(滋賀県同和問題研究所刊, 2003.6) : 400円

これからの人権教育を考える 淡海生涯カレッジを担当して 山口剛

月刊滋賀の部落 351(滋賀県同和問題研究所刊, 2003.7) : 400円

地域の同和問題・人権問題の発信 花木悟

月刊滋賀の部落 352(滋賀県同和問題研究所刊, 2003.8) : 400円

「人権教育推進プラン」は、学校現場に何をもたらすのか 田中政秀

県教委発行「人権教育推進プラン」と今求められる子どもの権利 山上修

「人権教育推進プラン」は、同和教育を深め、人権教育

への広がりを「推進」できるか(上) 山脇正孝

月刊滋賀の部落 353(滋賀県同和問題研究所刊, 2003.9) : 400円

「人権教育推進プラン」は、同和教育を深め、人権教育への広がりを「推進」できるか(中) 山脇正孝

人権・同和教育センター Report 13号(三重県教育委員会事務局学校教育分野人権・同和教育チーム, 三重県人権・同和教育センター刊, 2003.6)

三重県内における人権にかかわる歴史的遺産

人権・同和教育センター Report 14号(三重県教育委員会事務局学校教育分野人権・同和教育チーム, 三重県人権・同和教育センター刊, 2003.6)

県奨のあゆみ〔三重県高等学校奨学生研修会〕16年間の軌跡

人権と部落問題 705(部落問題研究所刊, 2003.7) : 630円

特集 「介護保険制度と地域福祉」

人種差別撤廃条約と部落差別 杉之原寿一

本棚 『「破戒」と人権』(川端俊英著)

文芸の散歩道 『熊笹にかくれて』(木々高太郎著) 片岡清子

世界の人権問題 ドイツにおけるマイノリティ問題と人権教育 生田周二

自立への歩み 村上誠子の半生 4 要求をぶつけよう 芝房治

人権と部落問題 706(部落問題研究所刊, 2003.8) : 630円

特集 「犯罪被害者の人権」

世界の人権問題 民主主義の道はるか 現代中国を見る

黒川美富子

文芸の散歩道 執念の駄作作家 杉山清詩 秦重雄

自立への歩み 村上誠子の半生 5 新しい世界へ 安保闘争とうたごえ運動 芝房治

人権と部落問題 707(部落問題研究所刊, 2003.9) : 630円

特集 再び人権擁護法案を考える

文芸の散歩道 「宿命的因果論」の文芸 宇野浩二と川島米治の作品酷似の謎 桑原律

自立への歩み 村上誠子の半生 6 決断のとき 芝房治

人権と部落問題 709(部落問題研究所刊, 2003.10) : 630円

特集 有事法制と人権

文芸の散歩道 百合子の警鐘「禰宜様宮田」 菱崎博

自立への歩み 村上誠子の半生 7 結婚生活と夫の入党 芝房治

人権21 調査と研究 165(岡山部落問題研究所刊, 2003.

8) : 650円

人権の現在を考える 5 社会権の空洞化と自由権の抑圧
碓井敏正

ケガレ意識が差別を生むか 県教委リーフレット批判
大森久雄

自治体史と部落問題 2 『灘崎町史』 旧版との比較から
見えてくるもの 寺見敬三

人権をめぐる教育・学習 4 アイヌ民族をめぐる教育と課
題 2 生田周二

月刊人権問題 319 (兵庫人権問題研究所刊, 2003.7) :
350円

部落解放運動から共同型地域住民運動への発展過程を明
確にした兵庫県連第29回定期大会 全解連兵庫県連書記局
近代の社会的差別 62 1920年代の都市社会と大正10年争
議 1 布川弘

月刊人権問題 320 (兵庫人権問題研究所刊, 2003.8) :
350円

高知からのレポート 従来の闘いと新しい闘いの同時進行
窪田充治

特別対策、同和対策事業が終結に向かう長野県行政 小橋
元春

自著を語る 『「破戒」と人権』について 川端俊英
近代の社会的差別 63 近代日本の都市社会 2 布川弘

振興会通信 65 (同和教育振興会刊, 2003.5)

仏教的「苦」理解の深化と同朋運動 1 仲尾孝誠

振興会通信 66 (同和教育振興会刊, 2003.7)

仏教的「苦」理解の深化と同朋運動 2 仲尾孝誠

月刊スティグマ 91 (千葉県人権啓発センター刊, 2003.
7) : 500円

特集 この夏訪ねたい戦争遺構

月刊スティグマ 92 (千葉県人権啓発センター刊, 2003.
8) : 500円

特集 地域通貨

月刊スティグマ 93 (千葉県人権啓発センター刊, 2003.
9) : 500円

特集 福田村事件から80年

書評

『子どもを選ばないことを選ぶ いのちの現場から出生
前診断を問う』(大野明子編著) / 『アンクルトムズ・
ケピンの幽霊』(池永陽著) / 『鬼哭啾啾 「楽園」
に帰還した私の家族』(辛淑玉著)

世界人権問題研究センター研究紀要 8号 (世界人権
問題研究センター刊, 2003.3)

戦国期祇園会の神輿渡御について 河内将芳

鏡花の挑発 19世紀日本の貧困と差別 田中和男

融和政策の形成とその問題点 部落改善と民力涵養運動

をめぐって 八箇亮仁

小町寺考 村上紀夫

イギリス(イングランド)の大学におけるジェンダー・
女性学教育のカリキュラム アンブレア・ポリテクニク
大学(ケンブリッジ)の事例を中心に 國信潤子

ドメスティック・バイオレンスの臨床社会学的研究 中村
正

自由権規約選択議定書5条2項(a)に対する留保 薬師寺
公夫

グローバル化と国際法 「人権戦略」の可能性 阿部浩己
全朝教通信京都版 46 (全国在日朝鮮人教育研究協議会
京都刊, 2003.6) : 250円

社会科教科書における在日韓国・朝鮮人関係記述 中学
校教科書を例にして 水野直樹

同和教育 495 (全国同和教育研究協議会編, 2003.6) :
360円

人権文化を拓く 76 アイヌ民族からの発言 長谷川修

同和教育 496 (全国同和教育研究協議会刊, 2003.7) :
150円

人権文化を拓く 77 米国系日本人として我が国での意識
高揚について 有道出人

同和教育 497 (全国同和教育研究協議会編, 2003.8) :
150円

人権のまちをゆく 17 人権ゆかりの地をたずねて~近現
代の京都と朝鮮を訪ねて~

人権文化を拓く 78 「おたまたさん、ごっつおうさん」 長
谷川義史

同和教育 498 (全国同和教育研究協議会編, 2003.9) :
150円

人権のまちをゆく 18 集まれ世界の子どもたち ワール
ド・アミーゴ・クラブ

人権文化を拓く 79 心身の性別、戸籍上の性別 虎井まさ
衛

『同和はこわい考』通信 163 (藤田敬一刊, 2003.8)

ホームページ開設顛末記 藤田敬一

部落解放同盟中央本部「『同和利権の真相』への見解」
を読む 野町均

どの子も伸びる 327 (部落問題研究所刊, 2003.7) : 7
00円

「人権教育」とは これていいの? 学校の「人権教育」
谷口幸男

どの子も伸びる 328 (部落問題研究所刊, 2003.8) : 7
35円

「人権教育」とは 補助教材『心のノート』の問題点 1
谷口幸男

どの子も伸びる 329 (部落問題研究所刊, 2003.9) : 7

35円

「人権教育」とは 補助教材『心のノート』の問題点 2
谷口幸男

どの子も伸びる 331 (部落問題研究所刊, 2003.10) :
735円

「人権教育」とは 補助教材『心のノート』の問題点 3
谷口幸男

はらっぱ 231 (子ども情報研究センター刊, 2003.7) :
700円

特集 生きづらさからわかちあいへ セルフヘルプグループとは

私のお気に入り

『教育には何ができないか 教育神話の解体と再生の
試み』(広田照幸著) / 『光とともに... 自閉症児
を抱えて』(戸部けいこ著)

はらっぱ 232 (子ども情報研究センター刊, 2003.8) :
700円

私のお気に入り

「Till there was you」(ザ・ビートルズ『ウィズ・
ザ・ビートルズ』) / 『しつけと体罰』(森田ゆり著)

はらっぱ 233 (子ども情報研究センター刊, 2003.9) :
700円

私のお気に入り

『シーラという子 虐待されたある少女の物語』(ト
リイ・L・ヘイデン著) / 『お母さんが笑った 子育て
の話』(樋口通子著)

東日本部落解放研究所ニュース 62 (東日本部落解放
研究所刊, 2003.7)

記念講演「斃牛馬処理にかかわった人々」を聞く 石井元
一郎

芸能民・民間宗教者の「新」事例と「賤民」の間 2つの
歴史部会から 藤沢靖介

ヒューマンライツ 184 (部落解放・人権研究所刊, 200
3.7) : 525円

現代史の目 23 国民総玉砕への道 小山仁示

参加型と呼ばない人権学習 4 あなたのエピソードを 岡
田耕治

書評 『曹智鉉写真集 猪飼野』(曹智鉉著) 平野一郎

ヒューマンライツ 特別号 (部落解放・人権研究所刊,
2003.6)

部落解放・人権研究所創立35周年 さらに深く、そしてよ
り広く

「部落解放研究」目次 (1998年4月~2003年4月)

「ヒューマンライツ」目次 (1998年4月~2003年5月)

ヒューマンライツ 185 (部落解放・人権研究所刊, 200
3.8) : 525円

現代史の目 24 権勢に抗した田淵豊吉代議士 張作霖爆
殺事件を追及 小山仁示

西アフリカの「カースト」 タル・タマリ『西アフリカ
のカースト 同族結婚の職人と楽人』の書評から 窪誠

参加型と呼ばない人権学習 5 アイスブレイクではなく

岡田耕治

書評

『部落史50話』(中尾健次著) 森田康夫 / 『許浚(ホ
ジュン)』(李恩成著) 酒井晃

最近読んだ本

『利潤か人間か グローバル化の実態と新しい社会運動』
(北沢洋子著) / 『「心」と戦争』(高橋哲哉著) /
『中東のゲッターから』(重信メイ著) / 『INTERVIEW
「部落出身」12人の今、そしてここから』(解放出版
社編)

ヒューマンライツ 186 (部落解放・人権研究所刊, 200
3.9) : 525円

現代史の目 25 ゴー・ストップ事件 小山仁示

杉之原寿一さんが人種差別撤廃条約の対象に部落差別が
含まれるとの論文を発表 友永健三

参加型と呼ばない人権学習 6 人権知の生まれる場 岡田
耕治

ひょうご部落解放 109 (ひょうご部落解放・人権研究
所刊, 2003.6) : 700円

特集 「部落解放・人権政策確立」要求の取り組みと差別
事件

映画評 「夜を賭けて」(金守珍監督, 2002年) 高吉美
本の紹介

『別冊 東北学VOL.5 特集壁を超える』(東北芸術工
科大学東北文化研究センター刊) / 『「部落出身」12
人の今、そしてここから』(解放出版社編) / 『地域
史のなかの部落問題 近代三重の場合』(黒川みどり
著) / 『都市下層の社会史』(小林丈広編著)

ひょうご部落解放 110 (ひょうご部落解放・人権研究
所刊, 2003.9) : 700円

特集 ひょうごの部落解放運動の取り組み~地域(支部)
の活動紹介~

本の紹介

『新 生涯学習・人権教育基本資料集』(金泰泳, 白石
正明, 中島智枝子, 三原容子編) / 『人権政策学のす
すめ』(江橋崇, 山崎公士編) / 『中上健次論 熊野・
路地・幻想』(守安敏司著)

部落解放 520号 (解放出版社刊, 2003.7) : 630円

特集 高松差別裁判糾弾闘争70周年

高松差別裁判事件の意義 秋定嘉和 / 高松闘争は現地香
川に何をもたらしたか 全国水平社香川県支部連合会の

苦悶 山下隆章 / 高松闘争 戦後の展開 喜岡淳 / 高松
結婚差別裁判の真相 朝治武 / 事件の経緯と差別裁判糾
弾の闘い 仲林弘次

差別の精神史 2 常民 / 差別を抱えこんだ仕掛け 赤坂憲
雄

映像フリースペース 「名もなきアフリカの地で」(カロ
リーナ・リンク監督) 白井佳夫

本の紹介

『地域史のなかの部落問題 近代三重の場合』(黒川み
どり著) / 『開かれた扉 ハンセン病裁判を闘った人た
ち』(ハンセン病違憲国賠訴訟弁護団著) / 『部落史
にまなぶ 紀州藩牢番頭家文書を読む』(和歌山人権研
究所刊) / 『異郷暮らし タヒャンサリ 在日する韓国・
朝鮮人の肖像』(高賛侑著)

希望と人権の海へ漕ぎ出そう 性同一性障害への理解の輪
を広めるために 虎井まさ衛

衡平社研究の現状 韓国・晋州で衡平社80周年記念国際学
術会議 川瀬俊治

世界屠畜考 9 残酷? かわいそう? チェコで沸く動物愛護
運動 チェコ篇上 内澤旬子

「うち、産むねん」母になることを選ぶ10代の少女たち
6 「私のことを思ってくれるのがすっごいうれしい」社
納葉子

部落解放 521号(解放出版社刊, 2003.7): 1,050円
第29回部落解放文学賞

部落解放 522号(解放出版社刊, 2003.8): 630円
特集 情報氾濫社会の歩き方

対談 「犯人」は作られる 河野義行, 三浦和義 / メディ
ア・リテラシーとは何か 西村寿子 / 中学校におけるメ
ディアリテラシー教育 井寄芳春 / 私論 イラク侵略戦
争とメディア / ジャーナリズムを殺したのはだれか?
メディアが作りあげる「世論」の正体 浅野健一

差別の精神史 3 箕づくりのムラを訪ねて 赤坂憲雄
本の紹介

『テレビを審査する 現場からのTVリテラシー』(松
田士朗著) / 『奈良県同和行政事業史』(奈良県編集・
発行)

西成差別って、なに? 「西成差別実態調査報告書」から
西成差別実態調査研究会

先住民族女性と「エンパワメント」 カロリーナ・サンチェ
ス

部落解放 523号(解放出版社刊, 2003.9): 630円
特集 人権のまちづくり

差別の精神史 4 職業に貴賤なし、と人はいふ 赤坂憲雄
本の紹介

『ヒューマンライツは複数形 ジャーナリストの直眼斜

眼』(稲積謙次郎著) / 『富田林・発 ジェンダーエッ
セイ集 めざめる女 つぶやく男』(ジェンダー・学び・
プロジェクト編)

箱廻し門付日記 「阿波の三番叟まわし」を受け継いで
阿波木偶箱廻しを復活する会

米最高裁のアファーマティブ・アクション判決 柏木宏
世界屠畜考 10 チェコ篇下 旨いぜソーセージ! ザビヤチュ
カに愛をこめて 内澤旬子

「うち、産むねん」母になることを選ぶ十代の少女たち
7 前向きに生きること 社納葉子

部落解放 524号(解放出版社刊, 2003.10): 630円
特集 新局面を迎えた同和行政

差別の精神史 5 先進/後進の二元論を超えて 赤坂憲雄
インタビュー 「革まつり」でまちを活性化 東京都・東
墨田の皮革関連業者が結束して 北川京子

打たれないほど高い「出る杭」になれ 私の歩んだ道 森
田益子

野宿者支援の国の姿勢は変わったか 「ホームレスの自立
の支援等に関する基本方針」について 笹沼弘志

世界屠畜考 11 モンゴル篇上 人とひと、人と家畜も、水
平線だよ、モンゴルは。 内澤旬子

「うち、産むねん」母になることを選ぶ十代の少女たち
8 高校を出ていなくてもちゃんと育てられたらいいねん
社納葉子

部落解放運動情報 72号([部落解放運動・情報] 編集
委員会刊, 2003.7): 300円

こんな本がでています

『地域再生の経済学 豊かさを問い直す』(神野直彦著)
 / 『あなたは一人じゃない~ドメスティック・バイオ
レンスは犯罪です~』 『一人にならないで~子どもへ
の虐待をなくすために~』(奈良県川西町東人権文化
センター, 西人権文化センター作成)

部落解放研究 152(部落解放・人権研究所刊, 2003.6):
1,000円

特集 不登校と人権教育の課題

今後の不登校への対応の在り方について 鈴木敏之 / 豊
かな心を培うためのアプローチ 不登校生への自己実
現に向けた指導・支援 吉川年幸 / 総合学習を通じた
不登校児童への働きかけ 幸隆之

人権知を考える 『動詞からひろがる人権学習』に寄せ
て 平沢安政

高校生の就職をめぐる現状と課題 小杉礼子

国連人権小委員会第54会期報告 野上典江

シンポジウム・企業の社会的責任 21世紀の新たな企業
戦略 西口徹

書評

- 『「水平社伝説」からの解放』（朝治武・黒川みどり・関口寛・藤野豊著）井岡康時 / 『18人の若者たちが語る部落のアイデンティティ』（松下一世著）芝山明義
部落解放研究 153（部落解放・人権研究所刊，2003.8）：1,000円
- 特集 近世部落における生業
近世の被差別民と医薬業・再考 斎藤洋一 / 近江の太鼓づくり 張替と製作をめぐる 古川与志継 / 近世関東における長吏の生業と市商い 岡田あさ子
開かれた学校づくりから地域教育コミュニティづくりへ 地域とともに歩む北条中学校区のとりのくみ 岩崎泰司
米国トヨタの多様化推進策の概要 李嘉永
書評 『兵庫県水平運動史料集成』（兵庫部落解放研究所編）朝治武
部落史関係文献目録（2002年1月～2003年3月）
部落解放なら 19（奈良人権・部落解放研究所刊，2003.3）：1,100円
全国水平社創立80周年記念講座講演録 「差別の民俗史」 赤坂憲雄
説経節『愛護の若』の記号論的解釈の試み 2 細工・田畑の介兄弟を軸として 辻本正教
書評 東京こそ、近代の〈奈落〉 宮崎学著『近代の奈落』を読む 金井英樹
部落解放ひろしま 65号（部落解放同盟広島県連合会刊，2003.7）：1,000円
特集 県水平社創立80周年の歴史をたどって
福山地裁結婚差別裁判闘争を振り返る 「近田事件」の真相とその歴史的闘い 三浦昇一 / 輝く人達がいた 福島町水平運動の曙 青木秀男 / 高須事件とは 部落解放ひろしま編集委員会 / 「ダイバ」差別事件 差別事件のマイナスをプラスに転化して 藤坂真治 / 呉における戦前の差別事件と水平社運動 呉部落解放研究所歴史部会 / 広島県水平社と反軍闘争 山本真一 / 部落解放運動・この半世紀 小森龍邦
庄原地方の「解放令」反対一揆 庄原市部落解放研究所
部落解放ひろしま 66号（部落解放同盟広島県連合会刊，2003.9）：1,000円
特集 国の難病対策の現状
部落解放史ふくおか 110号（福岡県人権研究所刊，2003.6）：1,050円
特集 第8回全国部落史研究交流会
領国を越えた関西の皮革業 渡辺村皮問屋の活動を中心に 勝男義行 / 江戸期 皮流通と大坂商人 長崎・府内・小倉・筑前・大坂 阿南重幸 / 大分府内藩と渡辺村 木本邦治 / 西日本農民組合の成立 戦時体制期の農民運動と被差別部落 有馬学 / 地域の政治状況と水平社運動 1920年代後半の奈良県を中心に 井岡康時 / 動物と関わった人たちの歴史 松井章
書評 『「水平社伝説」からの解放』（朝治武・黒川みどり・関口寛・藤野豊著） 中屋大介
部落問題研究 165（部落問題研究所刊，2003.7）：1,111円
和泉国在方非人番について 坂口由紀
受難の書『水平の行者』 原史料からのメッセージ 廣畑研二
部落問題文芸作品発掘 4
無花果の村 辻村乙未 / 作品解題 川端俊英
民権協ニュース 150（在日韓国民主人権協議会刊，2003.5）：300円
書籍紹介 『マイノリティと多民族社会 国際人権時代の日本を問う』（丹羽雅雄著）
民権協ニュース 151（在日韓国民主人権協議会刊，2003.6）：300円
書籍紹介 『マンガ 日本人と天皇 近代天皇制とはなにか』（雁屋哲作，シュガー佐藤画）
民権協ニュース 152（在日韓国民主人権協議会刊，2003.7）：300円
特集 2003年韓国学国際学術討論会 在外コリアンのアイデンティティ確立と教育の方向
書籍紹介 『東北アジア共同の家 新地域主義宣言』（和田春樹著）
Rights ライツ 49（鳥取市人権情報センター刊，2003.6）
今月のいちおし！ 『青い月のバラード』（加藤登紀子著）
Rights ライツ 50（鳥取県人権情報センター刊，2003.7）
今月のいちおし！ 『鬼哭啾啾』（辛淑玉著）清水祐加
Rights ライツ 51（鳥取市人権情報センター刊，2003.8）
今月のいちおし！ 『国際フリーター、世界を翔る』（中野有著）澤田みどり
Rights ライツ 52（鳥取市人権情報センター刊，2003.9）
今月のいちおし！ 『猫を喰った話～ハンセン病を生きて～』（崔龍一著）
立命館大学国際平和ミュージアムだより 29（立命館大学国際平和ミュージアム刊，2003.8）
ミュージアムおすすめの1冊 『戦争遺跡から学ぶ』（戦争遺跡保存全国ネットワーク編）
りべらしおん 1（福岡県人権研究所刊，2003.9）
座談会 福岡県人権研究所に期待すること

新聞書評等 (2003年7月～9月受入)

～各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました～

解放新聞 2125号 (解放新聞社刊, 2003.6.23) : 80円
今週の1冊 『メディア・コントロール 正義なき民主主義と国際社会』 (ノーム・チョムスキー著)

解放新聞 2126号 (解放新聞社刊, 2003.6.30) : 80円
今週の1冊 『空疎な小皇帝 「石原慎太郎」という問題』 (斎藤貴男著)

今月のおすすめ 『都市と職能民の活動 日本の中世6』 (網野善彦, 横井清著)

解放新聞 2127号 (解放新聞社刊, 2003.7.7) : 120円
今週の1冊 『ひいらぎの垣根をこえて ハンセン病療養所の女たち』 (佐々木雅子著)

シリーズ 被差別部落とキリスト教 3 山上卓樹を中心に
して 「明治」初期の元八王子村 1 太田勝

ハンセン病問題 これまで/これから 3 ハンセン病の歴史 (戦前1) 田中等

解放新聞 2129号 (解放新聞社刊, 2003.7.21) : 80円
今週の1冊 『ビルマ軍事政権とアウンサンスーチー』 (田辺寿夫, 根本敬著)

解放新聞 2130号 (解放新聞社刊, 2003.7.28) : 80円
映画 「灰の記憶」 (ティム・ブレイク・ネルソン監督)
今週の1冊 『実例・差別表現』 (堀田真得著)

山口公博が読む 今月の本

『猪飼野 追憶の1960年代』 (曹智鉉著) / 『竹田の子守唄 名曲に隠された真実』 (藤田正著) / 『たそがれ清兵衛』 (藤沢周平著)

今月のおすすめ 『中上健次論 熊野・路地・幻想』 (守安敏司著)

解放新聞 2131号 (解放新聞社刊, 2003.8.4) : 120円
「通リゃんせ考」を読んで 仲林弘次 / 「通リゃんせ考」
で気のついたこと 植村清司

今週の1冊 『火花 北条民雄の生涯』 (高山文彦著)

シリーズ 被差別部落とキリスト教 「明治」初期の元八王子村 山上卓樹を中心に
して 2 太田勝

ハンセン病問題 これまで/これから 4 ハンセン病の歴史 戦前2 田中等

解放新聞 2132号 (解放新聞社刊, 2003.8.11) : 80円
今週の1冊 『愛国心』 (田原総一郎, 西部邁, 姜尚中著)

解放新聞 2133号 (解放新聞社刊, 2003.8.25) : 80円
今週の1冊 『マイノリティと多民族社会 国際人権時代の日本を問う』 (丹羽雅雄著)

山口公博が読む今月の本

『新装版 戦中派不戦日記』 (山田風太郎著) / 『東京

セブンローズ』 (井上ひさし著) / 『戦争童話集』 (野坂昭如著)

今月のおすすめ 『部落史50話』 (中尾健次著)

解放新聞 2134号 (解放新聞社刊, 2003.9.1) : 120円
今週の1冊 『住基ネットいち抜けた 自治体離脱の手引き』 (反住基ネット連絡会編)

休戦から50年 朝鮮半島の戦争と平和 1 康宗憲
高松結婚差別裁判裁判糾弾闘争の真相 朝治武

ハンセン病問題 これまで/これから 5 ハンセン病の歴史 戦後1 田中等

解放新聞 2135号 (解放新聞社刊, 2003.9.8) : 80円

休戦から50年 朝鮮半島の戦争と平和 2 康宗憲
今週の1冊 『ホルモン奉行』 (角岡伸彦著)

解放新聞 2136号 (解放新聞社刊, 2003.9.15) : 80円
今週の1冊 『松戸自主夜間中学校の20年』 (松戸市に夜間中学校をつくる市民の会編)

解放新聞 2137号 (解放新聞社刊, 2003.9.22) : 80円
今週の1冊 『豊かさの条件』 (暉峻淑子著)

解放新聞 2138号 (解放新聞社刊, 2003.9.29) : 80円
今週の1冊 『出生前診断 一問一答』 (優生思想を問うネットワーク編)

山口公博が読む今月の本

『男と女 いのちの劇場』 (森安二三子著) / 『百鬼園隨筆』 (内田百閒著) / 『狐狸庵閑話』 (遠藤周作著) / 『山口瞳 「男性自身」傑作選 熟年篇』 (嵐山光三郎編)

今月のおすすめ 『瀬戸内の被差別部落 その歴史・文化・民俗』 (沖浦和光著)

解放新聞 435号 (岡山解放新聞社刊, 2003.5.25)

研究所総会記念講演 水平社宣言と現在の人権・同和問題
差別の現実から学ぶこと 住田一郎

解放新聞 436号 (岡山解放新聞社刊, 2003.6.10)

岡山県水平社創立80周年記念講演

全国水平社の創立といま (1) 師岡佑行 / 人権と刑事裁判 (えん罪) 山上益朗

解放新聞 437号 (岡山解放新聞社刊, 2003.6.25)

岡山県水平社創立80周年記念講演 全国水平社の創立といま 2 師岡佑行

解放新聞 438号 (岡山解放新聞社刊, 2003.7.10)

岡山県水平社創立80周年記念講演 全国水平社の創立といま 3 師岡佑行

解放新聞改進黨 309号 (部落解放同盟改進黨支部刊, 200

3.6)

部落の高齢化問題を考える 4 介護保険3

解放新聞京都市版 141号 (部落解放同盟京都市協議会刊, 2003.7) : 100円

市内の識字の現状と展望

京都市内の被差別部落の過去・現在・未来 歴史編8 「少シの野小屋」から「北小路西院村」へ 6 山内政夫

解放新聞東京版 575号 (解放新聞社東京支局刊, 2003.7.1) : 90円

東京の部落の歴史 22 「その後の弾左衛門体制」その4 身分解放を求めて活動した最後の弾左衛門集保 浦本誓至史

解放新聞東京版 576号 (解放新聞社東京支局刊, 2003.7.15) : 90円

東京の部落の歴史 23 「その後の弾左衛門体制」その5 新政府に独自の身分解放策提示した弾左衛門 浦本誓至史

解放新聞東京版 577号 (解放新聞社東京支局刊, 2003.8.1) : 90円

東京の部落の歴史 24 「その後の弾左衛門体制」その6 中央集権と相いれなかった被差別民の自治 浦本誓至史

解放新聞東京版 578号 (解放新聞社東京支局刊, 2003.8.15) : 90円

東京の人権博物館～展示と社会啓発の課題 3 江戸東京博物館 小田原澗

練馬部落と惣兵衛家の歴史 1 中世にさかのぼる練馬部落 豊島氏配下の職能集団か? 菊地照夫

解放新聞東京版 579号 (解放新聞社東京支局刊, 2003.9.1) : 90円

練馬部落と惣兵衛家の歴史 2 広大な職場を支配する幕藩体制下の練馬部落 菊地照夫

解放新聞東京版 580号 (解放新聞社東京支局刊, 2003.9.15) : 90円

東京の人権博物館～展示と社会啓発の課題 4 お肉の情報館 小田原澗

練馬部落と惣兵衛家の歴史 3 高い格式誇る惣兵衛家 幕府滅亡とともに没落 菊地照夫

なら解放新聞 702号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2003.8)

研究あれこれ 中世奈良と山水河原者 山村雅史

事務局より

前号冒頭で第12号の灘本昌久さんの論文「部落解放に反天皇制は無用」に対する意見を紹介し、経過説明をしました。その後も関係機関や読者の方々からいろいろなご意見をいただいておりますが、「所蔵図書資料を生かしながら部落問題・部落史の情報発信する」という研究資料センターの設立趣旨を再度確認して、今後もその趣旨に沿って「Memento」の編集をおこなっていきたくと思っています。

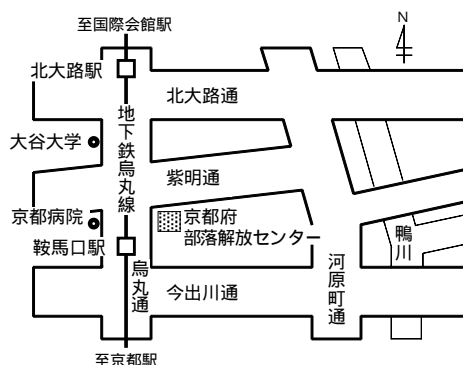
当センター発足から3年が過ぎ、ホームページを見て資料室を利用しに来られる方や公開している図書データベースを見ての問い合わせが増えていきます。10月初めには、ホームページへの来訪者が50,000件を超え、また、メールマガジンの読者も400人に達しました。これからも、情報提供のための工夫した取り組みをおこないますので、よろしくおねがいします。

訂正のお知らせ

前号『Memento』第13号5頁右側29行目及び6頁左側9行目の「本庄栄次郎」とあるのは「本庄繁」の誤りですので訂正します。

Memento 14

発行日 2003年10月25日 / 編集・発行 京都部落問題研究資料センター



所在地 〒603-8151

京都市北区小山下総町5-1
京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

U R L <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時
(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅 (京都駅より約10分) 下車 北へ徒歩2分